

社会学専攻大学院生 業績・略歴一覧

[項目内容]

- [1] 論文（査読有。かつ単著かファースト・オーサーのもの）
- [2] 論文（上記以外の論文。本 の 分担執筆 も含む）
- [3] 学会発表（海外・全国・地域の各学会）
- [4] 博論構想発表会での報告（専攻内もしくは同志社社会学研究学会）
- [5] 修士論文タイトル（未提出の人は予定タイトル）
- [6] 博士論文タイトル（あるいは研究テーマ。後期課程者のみ）
- [7] 非常勤講師、TA、チューターなど、教育・研究職歴
- [8] 調査報告書その他の執筆（社会調査実習報告書も含む）
- [9] 所属学会
- [10] 学歴・職歴その他

* 以下、課程別に入学年度および氏名のアルファベット順による。

[博士後期課程]

西岡 暁廣（ニシオカ アキヒロ／Nishioka Akihiro）

- [2] 2014 「厳罰意識の構造」『同志社社会学研究』18: 11-25.
- [5] 「厳罰志向に関する社会学的研究——デュルケム社会学的観点による理論的・歴史的・実証的検討——」
- [7] [非常勤講師]
 - 2013 島根大学法文学部「情報科学演習 A 1」（夏季集中講義）
 - 2014 島根大学法文学部「情報科学演習 A 1」（夏季集中講義）
 - 2014 摂南大学経営情報学部「市場調査実習」（通年科目）
 - 2015 島根大学法文学部「情報科学演習 A 1」（夏季集中講義）
 - 2015 摂南大学経営情報学部「市場調査実習」（通年科目）
- [TA]
 - 2011 年度 社会調査実習（小林久高）・社会調査実習（丸山真央）
 - 2013 年度 社会調査実習（小林久高）
 - 2014 年度 社会調査実習（DEBNAR MILOS）
 - 2015 年度 社会調査実習（中村圭）
 - 2015 年度 社会学演習Ⅲ（小林久高）
- [8] 2013 「ワードを使った論文作成法（Word 2010 Ver.）——KT 法の概要」『同志社大学 社会調査実習報告書 21 2012 年度大学生社会意識調査』235-253 頁（共著：小林久高・金政芸・

西岡暁廣・猿渡社).

2013 「エクセル入門 (Excel 2010 Ver.)」『同志社大学 社会調査実習報告書 21 2012 年度大学生社会意識調査』255-283 頁 (共著: 小林久高・猿渡社・金政芸・西岡暁廣・山本圭三).

[9] 関西社会学会

[10] 同志社大学社会学部社会学科卒業 (2010)

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程修了 (2013)

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻後期課程入学 (2013)

呉 仲元 (オ ジュンウォン / Oh Joongwon)

[5] 2009 「在日朝鮮人の民族意識について——京都朝鮮第二初級学校を中心に——」(龍谷大学大学院修士学位論文)

2014 「1950 年代、京都における朝鮮人社会について——京都市田中地区を事例に——」(同志社大学グローバルスタディーズ研究科修士学位論文)

[7] [TA]

2014 年度 社会学演習Ⅱ (板垣竜太)

2015 年度 社会学演習Ⅱ (板垣竜太)

[8] 2009 「書評: 小熊英二・姜尚中編『在日一世の記憶』(集英社新書、2008)」『龍谷大学経済学論集』49(1): 69-71.

2008 「書評: 田中宏・板垣竜太編『日韓新たな始まりの 20 章』」『社協京都会報』10: 58-60.

2014 「田中地区の在日朝鮮人の概要」板垣竜太編『京都市田中地区の在日朝鮮人と民族教育』(同志社大学社会学部板垣ゼミ報告書): 1-16.

[10] 立命館大学経済学部経済学科卒業

居酒屋くれしま勤務 (1982~1997)

京都朝鮮第 2 初中級学校勤務 (1998~2001)

龍谷大学大学院経済学研究科博士前期課程修了 (2004)

同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科博士前期課程修了 (2014)

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学 (2014)

落合世津子 (オチアイ セツコ / Ochiai Setsuko)

[3] 2010 「大阪府内における多胎育児サークル・教室の運営の現状と課題」第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京)

2013 「多胎育児支援教育の検討」第 72 回日本公衆衛生学会総会 (津市)

2016 「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素——多胎サークルメンバーのワークショップ『助けとなるもの』から」日本双生児研究学会第 30 回学術講演会 (和光大学)

2016 「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を促進する要素——多胎サークルメンバーのワークショップ『困っていること』から」第 57 回日本社会医学学会総会 (草津市)

- 2016 「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した多胎サークルと支援システムの検討——全国市区町調査から——」第75回日本公衆衛生学会総会（大阪）
- 2017 「Challenges and Things that Help in Parenting Multiple Birth Children」The 16th Congress of the International Society Twin Studies, (Madrid)
- 2019 「多胎育児家庭への家庭訪問型支援の先進事例－面接調査から－」日本双生児研究学会第33回学術講演会（大阪市立大学）
- 2020 「育児ストレスと関連の有る因子の探索を通じた多胎育児支援の検討」第8回日本公衆衛生看護学会学術集会（松山市総合コミュニティセンター）
- 2021 「未就学多胎児の母の『多胎妊婦さんと多胎ママとご家族に伝えたいこと』」第9回日本公衆衛生看護学会学術集会オンライン
- 2021 「未就学多胎児親の育児ストレスに影響する要因」日本双生児研究学会第35回学術講演会（慶応義塾大学）オンライン
- [4] 「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した多胎サークルと支援システムの構築を促進する要素——多胎サークルのワークショップ、保健・子育て機関調査とサークル活動事例より——」（博論構想発表会 2015）
「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した多胎サークルと支援システムの構築を促進する要素」（博論構想発表会 2017）
「多胎育児とソーシャルキャピタル形成」（博論構想発表会 2020）
- [6] 「多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した多胎サークルと支援システムの構築を促進する要素」（研究テーマ）
- [7] 2009年度～2014年度 藍野大学医療保健学部看護学科教授（地域看護学・公衆衛生看護学）
2015年度 藍野大学医療保健学部特任教授（地域看護学・公衆衛生看護学）
2016年度～2019年度 平安女学院大学子ども教育学部非常勤講師（子どもの保健Ⅰa、Ⅰb、子どもの保健Ⅱ）
- [8] 2016 「多胎育児のソーシャルキャピタルの形成を目指した多胎サークルと支援システムの検討」平成25・26・27年度科学研究費助成事業報告書
2017 「多胎育児支援のネットワークづくり」公衆衛生第81巻第7号, 603-606, 医学書院
2019 「ふたご家庭の育児困難感にサポートを」歯科衛生士 September 2019 vol.43, 76-77, クインテックス出版株式会社
- [9] 日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本社会医学会、日本双生児研究学会
- [10] 保健所保健師、短大教員、専門学校教員、大学教員
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学（2014）

池田梨恵子（イケダ リエコ／Ikeda Rieko）

- [2] 2015 「看護師の看護師の資格を使用しない就職要因の検討——国立X大学看護学科卒業者へのインタビューを通じて——」『日本労務学会第45回全国大会研究報告論集』183-189.

- 2016 「高レベル大学看護学科卒業者の看護職資格取得後のキャリア——看護職、一般企業総合職、医療専門職への展開——」『日本労務学会第46回全国大会研究報告論集』19-26.
- 2017 「科学技術系専門職の就業環境、キャリア、エートス：組織、制度、社会構造からのアプローチ」『2017年度同志社リエゾンフェア・ハリス理化学研究所発表会予稿演習』70-75. (共著：藤本昌代・松村淳・池田梨恵子・張韜)
- 2018 「組織における専門職を理解するために：科学技術系を中心とした専門職の志向、組織との関係、働く環境、教育環境」『2018年度同志社大学リエゾンフェア・ハリス理化学研究所発表会講演予稿集』28-32. (共著：藤本昌代・池田梨恵子・張韜)
- 2019 「日本の社会学における2000年以降のホワイトカラー研究経緯(1)——尾高邦雄の職業社会学的視点の再確認と現代の傾向分析——」『評論社会科学』130:107-141.
- 2020 “IDENTITY, ORGANIZATION AND FUNCTIONING OF A FRENCH PHOTONICS CLUSTER: THE CASE OF OPTX,” HYORN SHAKAIKAGAKU, 134:55-82. (共著：Hiroatsu NOHARA, Masayo FUJIMOTO, Hidetada HIGASHI, Rieko IKEDA)
- 2021 「緊急事態宣言下におけるテレワークを行う女性のワークライフバランス：オンラインインタビュー調査を通じて」『評論・社会科学』138, 165-186.
- 2021 「産官学連携クラスターの日仏比較研究シリーズ 事例J1-1：静岡県浜松地域の光・電子技術産官学連携クラスター2018年度調査」, 『評論・社会科学』136:87-102. (共著：藤本昌代・東秀忠・池田梨恵子・野原博淳)
- 2021 「産官学連携クラスター形成・継続の日仏比較研究シリーズ：事例J2-1 川崎市・殿町地区における『ナノメディカルクラスター』2018年度調査」, 『山梨学院大学経営学論集』2:53-62. (共著：東秀忠・野原博淳・藤本昌代・池田梨恵子)
- 2021 Monograph on the French competitiveness cluster PAST: History, Governance, Organization and Trajectory, HYORN SHAKAIKAGAKU, 136:103-140. (共著：Hiroatsu NOHARA, Masayo FUJIMOTO, Hidetada HIGASHI, Rieko IKEDA)
- 2021 「産官学連携クラスター形成・継続 日仏比較研究シリーズ ——事例J3：佐賀県唐津市・玄海町 コスメティック・クラスター 2018年度調査——」『評論・社会科学』139:107-127. (共著：池田梨恵子・藤本昌代・東秀忠・野原博淳)
- [3] 2015 「看護師の資格を使用しない就職要因の検討——国立X大学看護学科卒業者へのインタビューを通じて——」第45回日本労務学会(法政大学)
- 2016 「高レベル大学看護学科卒業者の看護職資格取得後のキャリア——看護職、一般企業総合職、医療専門職への展開——」第46回日本労務学会(同志社大学)
- 2017 「科学技術系専門職の就業環境、キャリア、エートス：組織、制度、社会構造からのアプローチ」リエゾンフェア・ハリス理化学研究所研究発表会(於：同志社大学)
- 2018 ‘Examination of employment factors not using nursing qualifications in Japan’ Society for the Advancement of Socio-Economics Annual Meeting (Doshisha University)
- 2018 「組織における専門職を理解するために：科学技術系を中心とした専門職の志向、組織と

- の関係, 働く環境, 教育環境」リエゾンフェア・ハリス理化学研究所研究発表会 (於: 同志社大学)
- 2020 「看護資格取得者のキャリア——隣接分野としての治験産業における就業者を中心に——」
第 71 回関西社会学会 (於: 龍谷大学)
- 2021 「緊急事態宣言下におけるテレワーク勤務を行う女性のワークライフバランス——オンラインインタビュー調査を通じて——」第 51 回日本労務学会 (於: 神戸大学)
- [4] 「看護資格を展開する資格取得者のキャリアと職業エートス」博論構想発表会 (2018)
- [5] 「看護系大学卒業者の資格取得後のキャリアパス——トップクラス看護系大学卒業者を事例として——」(2014)
- [6] 「看護師資格取得者のキャリアと資格の展開」(研究テーマ)
- [7] [非常勤講師]
- 2018 年度 中部労災看護学校「社会学」
- 2019 年度 中部労災看護学校「社会学」
- 2020 年度 帝塚山大学「社会・文化 A (社会学)-2」
- 2020 年度 帝塚山大学「統計・情報 C (リサーチ入門)-3」
- 2021 年度 帝塚山大学「社会・文化 A (社会学)-2」「社会・文化 A (社会学)-3」
- 2021 年度 帝塚山大学「統計・情報 C (リサーチ入門)-1」
- [研究員]
- 2018-2019 同志社大学 ハリス理化学研究所 嘱託研究員
- 2018- 同志社大学 働き方と科学技術研究センター研究員
- [TA]
- 2013 年度 社会調査実習 (藤本昌代)
- 2013 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- 2014 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- 2015 年度 社会学演習Ⅲ (鯉坂学)
- 2016 年度 社会学演習Ⅲ (鯉坂学)
- 2017 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- 2018 年度 社会学演習Ⅲ (河口充勇)
- 2019 年度 社会調査実習 (藤本昌代)
- 2019 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- 2020 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- 2021 年度 社会学演習Ⅲ (藤本昌代)
- [8] 2013 「社会調査実習報告書」
- 2019 「社会調査実習報告書」
- 2020 「社会調査実習報告書」
- [9] 日本労務学会

Society for the Advancement of Socio-Economics

関西社会学会

- [10] 京都大学医学部保健学科看護学専攻卒業（2010）
同志社大学社会学部社会学科卒業（2012）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程修了（2015）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学（2015）

野々村元希（ノノムラ モトキ／Nonomura Motoki）

- [1] 2018 「ナショナリズム・ライシテ・道徳的個人主義——フランス第三共和政下の政治的対立とデュルケム」『ソシオロジ』193；pp.23-41.
2019 「弱肉強食イデオロギーとその階層的背景に関する計量分析——文化的豊かさに注目した試論的検討」『経済社会学会年報』41；pp.73-86.
- [2] 2015 「漱石とデュルケム——個人主義をめぐる」『同志社社会学研究』19；pp.33-45.
2016 「ネオリベラリズム・ナショナリズム・デモクラシー——現代政治の基本構図」『評論・社会科学』119；pp.81-102.
2021 「マートン：アノミー」中島道男・岡崎宏樹・小川伸彦・山田陽子編『社会学の基本——デュルケムの論点』学文社，190-195（分担執筆）.
- [3] 2015 「デュルケムの『道徳的個人主義』について」第30回デュルケム／デュルケム学派研究会（文京学院大学）
2016 「『道徳的個人主義』の構造から見るデュルケム社会学の企図」第67回関西社会学会（大阪大学）
2017 「ネオリベラリズムをめぐる意識とその構造——弱肉強食志向を中心として」経済社会学会第53回全国大会（名古屋学院大学）
2018 「フランス第三共和政下の政治的対立とデュルケム——ナショナリズム・宗教・道徳的個人主義」第69回関西社会学会大会（松山大学）
2018 「『弱肉強食志向』と階層の関連——2つの豊かさに注目して」経済社会学会第54回全国大会（慶応義塾大学）
- [4] 2016 「『共存』の思想としてのデュルケム社会学」（博論構想発表会）
2018 「デュルケムの『道徳的個人主義』と現代」（博論構想発表会）
2019 「デュルケム社会学と現代——『道徳的個人主義』を中心とする理論的・実証的研究」（博論構想発表会）
- [5] 2014 「デュルケムの道徳的個人主義について」
- [6] 「デュルケムの『道徳的個人主義』を中心とする理論的・実証的研究」
- [7] [非常勤講師]
2018年度～ 京都女子大学現代社会学部「社会調査法Ⅰ」（前期開講科目）
2018年度～ 京都女子大学現代社会学部「社会調査法Ⅲ」（前期開講科目）

- 2019年度～ 帝塚山大学文学部「社会学 A」(前期開講科目)
- 2019年度～ 帝塚山大学文学部「社会学 B」(後期開講科目)
- 2019年度～ 摂南大学法学部「社会学 I」(前期開講科目)
- 2019年度～ 摂南大学法学部「社会学 II」(後期開講科目)
- 2019年度～ 摂南大学理工学部「社会の仕組み」(前期開講科目)
- 2019年度～ 摂南大学法学部「社会調査の方法」(後期開講科目)

[TA]

- 2013年度 社会学演習 II (西丸良一)
- 2014年度 社会学演習 I (DEBNAR MILOS)
- 2014年度 社会調査実習 I (小林久高)
- 2015年度 社会調査実習 I (小林久高)
- 2015年度 社会学演習 III (杉本久未子)
- 2016年度 社会調査実習 I (小林久高・山本圭三)
- 2017年度 社会調査実習 I (小林久高・山本圭三)
- 2018年度 社会調査実習 I (小林久高)
- 2019年度 社会調査実習 I (小林久高)
- [8] 2018 『『人格崇拜』論の現代的意義 (日仏社会学会 HP コラム)』 (no.61・2018.10.3 掲載)
- [9] 関西社会学会、日仏社会学会、経済社会学会
デュルケーム／デュルケーム学派研究会
- [10] 岐阜県立岐阜北高等学校卒業 (2009)
同志社大学社会学部社会学科卒業 (2013)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学 (2013)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学 (2015)

金 汝卿 (キム ヨギョン／Kim Yeokyung)

- [1] 2017 「조국이란 무엇인가: 귀국 1.5 세 제일탈북자의 구술사를 중심으로」『구술사연구』(8)-1.
(「祖国とは何か：帰国 1.5 世在日脱北者のオーラルヒストリーを中心に」韓国オーラルヒストリー学会誌)
- 2020 「民族教育の『母』であること——朝鮮学校のオモニ会に見られる女性の〈生きる方法〉」『ソシオロジ』65(1)：23-39.
- 2021 「変化する都市社会のなかの民族教育——京都市西部の朝鮮学校児童の居住地分布から——」『韓国朝鮮の文化と社会』20：103-140.
- [2] 2017 「コリアン・ディアスポラの子どもにおける『アイデンティティ』の変容——『オリニ希望学校』の事例を中心に——」2015年度日中大学院生学術フォーラム論文集
- [3] 2015 「コリアン・ディアスポラの子どもにおける『アイデンティティ』の変容——『オリニ希望学校』の事例を中心に——」日中大学院生学術フォーラム『アジアにおける人文・社会

- ・経済の変容と展望』(於、大阪産業大学)
- 2017 TUDOKU Conference 2017, “Social Movement and Cultural Reproduction : Focusing on Meanings of Korean Schools in Zainichi Korean Women’s Life Histories” (於、同志社大学)
- 2018 「在日朝鮮人の居住基盤の変化と朝鮮学校-A市T朝鮮学校児童の居住地分析に基づいて-」第69回関西社会学会 (於、松山大学)
- 2018 「민족교육을 둘러싼 재일조선인여성의 활동과 운동 : 조선학교어머니회를 중심으로」第3回 Ricks Academy (於、高麗大学校 (韓国))
- 2019 「朝鮮学校と地域社会の関係をめぐって (2) -朝鮮学校生徒と地域社会住民の相互認識-」第70回関西社会学会 (於、関西学院大学)
- 2019 「朝鮮学校の母親の経験からみる民族とジェンダー」第71回教育社会学大会 (於、大正大学)
- 2019 「在日朝鮮人居住地からみる社会的環境の変化-京都市西部の朝鮮学校児童の家庭に着目して」第60回京都コリア学コンソーシアム研究会
- 2020 「京都の朝鮮学校児童の居住地分布と居住基盤の変化」第38回都市社会学会
- 2020 「在日朝鮮人女性の同胞女性ネットワーク——朝鮮学校の母親のライフヒストリーより」第93回日本社会学会
- 2020 「同胞女性ネットワークの〈力〉をめぐって——朝鮮学校オモニ会の「楽しさ」の考察」韓国・朝鮮文化研究会第74回例会
- 2022 「朝鮮学校の母親のライフヒストリーから考える民族とジェンダー」同志社社会学会.
- [4] 2017 京都市西部地域社会と在日朝鮮人女性~都市化・産業化のなかでの民族教育空間 (博論構想会)
- 2018 日本の公教育における PTA と朝鮮学校における「オモニ会」との比較考察 (博論構想会)
- 2019 京都西部の民族教育と在日朝鮮人女性に関する社会学的研究 (博論構想会)
- 2020 在日朝鮮人女性の同胞女性ネットワーク (博論構想会)
- [5] 「祖国とは何か——在日脱北者のオーラルヒストリーからみるネイション／祖国」(2011)
- [6] 「京都市西部の民族教育と在日朝鮮人女性の生活に関する社会学的研究」
- [7] [非常勤講師]
- 2020年度 大谷大学「韓国・朝鮮語 I-b」(後期開講科目)
- 2021年度 大谷大学「韓国・朝鮮語 I-a」「韓国・朝鮮語 I-b」
- 2021年度 龍谷大学「コリア語1」「コリア語2」
- [RA]
- 2020年度~2022年度 同志社大学人文科学研究所第6研究「体制形成期北朝鮮の文化史と学祭的研究」
- [TA]
- 2015年度、2016年度 社会学演習Ⅲ (板垣竜太)
- 2017年度、2018年度、2019年度、2020年度、2021年度 社会調査実習Ⅰ (板垣竜太)

[LA]

2018年度、2019年度 ラーニングコモンズ、学習相談アシスタント

[IA]

2014年度～2018年度 京都大学学術情報メディアセンター

[SA]

2015年度 韓国の文化と変容（京都コンソーシアム科目）

- [8] 「京都市田中地区の在日朝鮮人と民族教育」2014年度板垣ゼミ報告書
「京都市田中地区の在日コミュニティと民族教育」2015年度板垣ゼミ報告書
「京都市西部の民族教育と在日朝鮮人社会－京都朝鮮第二初級学校を中心に－」2016年度板垣ゼミ報告書
「京都市西部における在日朝鮮人の仕事と生活」2017年度板垣ゼミ報告書。
「朝鮮学校と銀閣寺－京都朝鮮中高級学校と地域社会との関係をめぐって」2018年度板垣ゼミ報告書
「日韓大学生の比較研究——パンデミック下での国境をこえた社会調査の試み」2020年度板垣ゼミ報告書
- [9] 関西社会学会、教育社会学会、朝鮮学校研究会、韓国・朝鮮文化研究会、関西インクルーシブ教育研究会
- [10] 大阪産業大学人間環境学部文化環境学学士取得（2009）
京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了（2011）
同志社大学大学院博士後期課程入学（2015）

張 韜（チョウ トウ／Zhang Tao）

- [1] 2011 張韜・竇心浩, 「關於日語專業學生就業意識的實証研究」徐一平・菅原清志編『日本学研究』(21), 北京: 学苑出版社, 344-351. (中国語)
- [2] 天野郁夫, 2009, 『大学の誕生』中央公論新社. (=2011 黄丹青・竇心浩等訳『大学的誕生』南京大学出版社) 共訳
2017 「『縄張り作業』: 日本の大学における「外国語学部」の発展史の一考察」『評論・社会科学』122: 85-106.
2017 「日本高校外語類專業的組織変遷: 以外語系為中心」許慈恵・竇心浩・高潔・盛文忠編『日語教育与日本学研究: 2016年日本学国際研討会暨中国日語教学研究會年會論文集』上海: 華東理工大学出版社, 304-10. (中国語)
- [3] 2016 「組織構造から見た日本の大学における外国語専門教育の変遷——外国語学部と文学部を中心に」上海外大日本学国際シンポジウム及び中国日本語教育研究会年次大会（上海外国語大学）
2017 「科学技術系専門職の就業環境、キャリア、エートス: 組織、制度、社会構造からのアプローチ」（同志社大学. 共同発表: 藤本昌代・池田梨恵子・松村淳）

- 2018 “Towards a Science, or a Craft? KAKENHI as an Academic Policy on Language Studies in Japan” SASE 30th Annual Meeting (Doshisha University)
- 2018 「日本の大学における外国語専門教育の変容——競争と分化の視点から」教育社会学会第70回大会（佛教大学）
- 2018 「日本の大学における外国語専門教育の発展—競争と分化の観点から」上海外大日本学国際シンポジウム及び中国日本語教育研究会年次大会（上海外国語大学）
- 2018 「組織における専門職を理解するために：科学技術系を中心とした専門職の志向、組織との関係、働く環境、教育環境」（同志社大学、共同発表：藤本昌代・池田梨恵子）
- [4] 「日中の大学における外国語専門教育の学問領域および研究者集団の形成について」（博士論文構想発表会 2016）
「外国語専門教育組織の成立：「領土」としての教育課程をめぐる闘争」（博士論文構想発表会 2016）
- [5] 関於日語專業畢業生去向選択的実証研究（中国語）
- [6] 「日中の大学における外国語専門教育のディシプリンおよび研究者集団の形成について」（研究テーマ）
- [7] [TA]
2015年度 社会学理論（鵜飼孝造）
2016年度 情報社会学（藤本昌代）、社会調査実習（平尾桂）
2017年度 社会学演習Ⅱ（藤本昌代）、地域社会学（鱈坂学）
2018年度社会学演習Ⅲ（藤本昌代）
- [9] 中日社会学会
- [10] 上海外国語大学日本語学科卒業（2009）
上海外国語大学日本語専攻修士課程修了（2012）
法律事務所勤務（2012～2015）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学（2015）

金 漢撃（キム ハンナ/Kim Hanna）

- [3] 2019 「在日済州人の国境を超えた社会運動—日本での4・3運動に関わった人々の経験から」第70回関西社会学会（於 関西学院大学）
- [4] 在日済州人による4・3運動に関する社会学的研究（2018年）
在日済州人による4・3運動（2019年）
- [5] 在日済州人による4・3運動に関する社会学的研究
在日済州人による4・3運動に関する社会学的研究
- [7] [TA]
2017年度 社会学演習Ⅲ（1）-3（板垣竜太）
2017年度 社会学演習Ⅲ（2）-3（板垣竜太）

- 2018年度 社会学演習Ⅲ (1)-3 (板垣竜太)
- 2019年度 社会学演習Ⅱ (1)-3 (板垣竜太)
- 2019年度 社会学演習Ⅱ (2)-3 (板垣竜太)
- 2019年度 社会調査実習Ⅰ-7 (徳田剛)
- [8] 2018 「社会調査実習報告書－朝鮮学校と銀閣寺」
- 2019 「社会調査実習報告書－朝鮮学校と銀閣寺Ⅱ」
- 2019 「社会調査実習報告書－第4章 韓国インバウンド観光客のインターネットを通じた情報共有の傾向」
- [9] 関西社会学会、日本社会学会
- [10] 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部卒業 (2011)
- 立命館大学大学院国際関係研究科国際関係学専攻博士前期課程修了 (2014)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学 (2016)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学 (2018)

得能 司 (トクノウ ツカサ/Tokunou Tsukasa)

- [2] 2022 「人口の都心回帰期の祇園祭運営に見る町自治——「菊水鉾町町内会規約」の制定と運用を事例に」同志社大学経済学会『経済学論叢』73(4) : 1-26.
- [3] 2017 「『都心回帰』時代における伝統型祭礼の継承——京都祇園祭菊水鉾町の実践を事例に」、同志社大学人文科学研究所第19期第15部門研究会「京都のくらしと『まち』の総合研究」2017年度第1回研究会 (於 同志社大学)
- 2018 「人口の都心回帰と祇園祭山鉾町——菊水鉾への奉仕体験を中心に」都のまつり文化研究会『講演会 祇園祭細見 XII』(於 国立民族学博物館)
- 2019 「京都祇園祭山鉾行事の社会学的研究——菊水鉾の再生産戦略と祭縁協働体」同志社大学人文科学研究所第19期第15部門研究会「京都のくらしと『まち』の総合研究」2018年度第4回研究会 (於 同志社大学)
- 2019 「人口の都心回帰と都市祭礼の継承——京都祇園祭山鉾行事を事例に」関西社会学会第70回大会 (於 関西学院大学)
- 2019 「人口の都心回帰と祭礼組織の再編——京都祇園祭山鉾行事を事例に」日本都市社会学会第37回大会 (於 東洋大学)
- 2019 「人口の都心回帰が都市祭礼の継承に与えた影響——祇園祭・菊水鉾を事例に」京都民俗学会第38回大会 (於 京都産業大学)
- 2020 「現代都市町内における『適任者』自治——京都祇園祭山鉾町における『よそ者』『新参者』の包摂」地域社会学会第45回大会 (於 ZOOM)
- 2021 「コロナ禍の都市祭礼の実践——京都祇園祭山鉾行事を事例に」コミュニティ政策学会第20回大会 (於 ZOOM)
- 2021 「コロナ後の都市コミュニティの在り様を考える——2020年コロナ禍における祇園祭・菊

- 水鉾を事例に」同志社大学人文科学研究所 第20期第12部門研究会「京都のコミュニティに関する総合的研究——都市におけるつながりの実証研究」2020年度第4回研究会（於 同志社大学）
- [4] 町衆と祭縁の地域社会学的研究——よそ者・新参者の包摂による祭礼の創造と再生産（2019年度博士論文構想発表会）
よそ者・新参者の包摂による祭礼の実践——2020年7月のコロナ禍における祇園祭・菊水鉾の参与観察を中心に（2020年度博士論文構想発表会）
町衆と祭縁の地域社会学——京都祇園祭山鉾行事への適任者包摂による「場所性」の継承（2021年度博士論文構想発表会）
- [5] 2019 「京都祇園祭山鉾行事の社会学的研究——菊水鉾の再生産戦略と祭縁協働体」
- [6] 地域の社会経済構造の流動と祭礼文化の継承（研究テーマ）
- [7] [TA]
2017年度 社会学演習Ⅲ（鯉坂学）
2018年度 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ（轡田竜蔵）
2019年度 社会学演習Ⅲ（轡田竜蔵）
2019年度 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ（轡田竜蔵）
2019年度 京都経済史Ⅰ・Ⅱ（経済学部 奥田以在）
2020年度 社会学演習Ⅲ（轡田竜蔵）
2020年度 エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2（経済学部 西村卓）
2021年度 社会学演習Ⅲ（轡田竜蔵）
2021年度 エコノミクス・ワークショップ・プライマリ1（経済学部 西村卓）
2021年度 卒業研究（経済学部 西村卓）
- [8] 2021 年度社会調査実習報告書『コロナ禍で歴史と文化を継承する——朝鮮学校と大文字送り火の調査』（板垣龍太）第2章「コロナ禍に大文字送り火を継承する「祭縁」」監修
- [9] 関西社会学会、日本都市社会学会、地域社会学会、京都民俗学会、コミュニティ政策学会
同志社大学人文科学研究所 第21期第15部門研究会「京都のコミュニティに関する総合的研究——都市におけるつながりの実証研究」
- [10] 大阪府立大手前高等学校卒業（2012）
同志社大学社会学部社会学科卒業（2017）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2017）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程 入学（2019）
日本学術振興会特別研究員 DC2（2020.04～）
同志社大学人文科学研究所嘱託研究員（2020.04～）
同志社大学人文科学研究所 第19期第15部門研究会「京都のくらしとまちの総合研究」（代表：経済学部 西村卓）事務局（2017.04～2019.03）
同志社大学人文科学研究所 第20期第12部門研究会「京都のコミュニティに関する総合的研究

——都市におけるつながりの実証研究」(代表：経済学部 奥田以在) 事務局 (2019. 04～2020. 03)

専門社会調査士 (2020)

高等学校地理歴史科一種免許 (2017)

学校図書館司書教諭資格 (2018)

中学校社会科・高等学校公民科専修免許 (2019)

川見 文紀 (カワミ フミノリ/Kawami Fuminori)

- [1] 2016 「リスク回避に影響を及ぼす防災リテラシーとハザードリスク及び人的・物的被害認知とのノンリニアな交互作用に関する研究：2015年兵庫県県民防災意識調査の結果をもとに」『地域安全学会論文集』29:135-142. (共著：川見文紀・林春男・立木茂雄)
- 2018 「生活再建7要素が東日本大震災被災者の生活復興感に与える影響－震災から5年が経過する中での東日本大震災生活復興調査から－」『地域安全学会論文集』33:53-62. (共著：川見文紀, 林 春男, 木村玲欧, 田村圭子, 井ノ口宗成, 立木茂雄)
- 2019 「借り上げ仮設住宅施策はすまいの再建を早めたか－宮城県名取市のデータを用いた因果推論－」『地域安全学会論文集』35:217-224. (共著：藤本慎也・川見文紀・亀井敏和・徳永健介・三谷泰浩・立木茂雄)
- 2020 「被災前の世帯の社会的脆弱性がすまいの再建に与える影響」『地域安全学会論文集』37:421-428. (共著：川見文紀・松川杏寧・佐藤翔輔・立木茂雄)
- 2021 「災害ケースマネジメントがすまい再建に与えた影響：合成コントロール法による仙台市の被災者支援の分析」『日本建築学会計画系論文集』87(797)：印刷中. (共著：川見文紀・立木茂雄)
- [2] 2016 「首都直下地震及び、南海トラフ地震による被害が予想される自治体における災害時の合理的配慮の提供に関する取り組みについての考察：災害と障害者に関するNHKアンケートの結果から」『地域安全学会特別論文集』No.5:p 23-28. (共著：川見文紀・立木茂雄)
- 2016 「東日本大震災における仮住まい方式が生活復興感に与える影響についての検討－2014年名取市現況調査データを用いた傾向スコア分析から－」『地域安全学会特別論文集』No.6:p 9-14 (共著：川見文紀・松川杏寧・立木茂雄)
- [3] 2016 「地震のインパクト認知がリスク追求傾向に及ぼす非線形的な影響の研究：2015年兵庫県県民防災意識調査の結果報告」第38回地域安全学会研究発表会(春季)(高知県県民文化センター) (共著：川見文紀・立木茂雄)
- 2017 「仮設住宅入居期間に影響を与える要因についての基礎的研究－名取市の入退去日データを用いた生存時間分析から－」第40回地域安全学会研究発表会(秋季)(ポスター発表 共著：川見文紀・松川杏寧・佐藤翔輔・立木茂雄)
- 2017 “The Effect of Temporary Housing Types on Permanent Housing Relocations” 4th Asian Conference on Urban Disaster Reduction (共著：Fuminori Kawami, Anna Matsukawa, Shousuke

SATO and Shigeo TATSUKI)

- 2018 「東北3県における東日本大震災被災者の生活復興に対する生活再建7要素の影響に関する基礎的研究：震災から5年が経過する中での東日本大震災生活復興調査の結果から」第42回地域安全学会研究発表会（春季），奥尻町海洋研修センター（共著：川見文紀，林春男，木村玲欧，田村圭子，井ノ口宗成，立木茂雄）
- 2019 “How do the pre-disaster social vulnerabilities affect the temporary housing residency?” 44th Natural Hazard Workshop, Boulder, Colorado, July, (ポスター発表：共著 Fuminori KAWAMI, Anna MATSUKAWA, Shousuke SATO and Shigeo TATSUKI)
- 2019 “Interactions of Pre-disaster Households’ Social Vulnerabilities on Post-disaster Housing Recovery: Analyses of Sendai City Temporary Housing Open Data”. 5th International Conference on Urban Disaster Reduction. Taipei, Taiwan. September, (Fuminori KAWAMI, Anna MATSUKAWA, Shousuke SATO and Shigeo TATSUKI)
- 2020 「災害復興研究におけるパネル分析の応用の可能性」第44回地域安全学会研究発表会（春季），オンライン，2020年5月。（共著：川見文紀・立木茂雄）
- 2020 Differential Impacts of Social Vulnerabilities on Housing Recovery, 45th Natural Hazard Workshop, Boulder, Colorado, July, 2020. (ポスター発表：共著：Fuminori KAWAMI, Anna MATSUKAWA, Shousuke SATO and Shigeo TATSUKI)
- 2021 「合成コントロール法を用いた仙台市の災害ケースマネジメントの効果分析」第46回地域安全学会研究発表会（春季），オンライン，2021年5月。（共著：川見文紀・立木茂雄）
- 2021 Long-Term Effects of Vulnerabilities: Great East Japan Earthquake (GEJE) Five Wave Life Recovery Population Panel Surveys, Researchers Meeting, 46th Natural Hazard Workshop, Online, July, 2021. (共著：Fuminori KAWAMI, Shinya FUJIMOTO, Anna MATSUKAWA, Shousuke SATO, Shigeo TATSUKI)
- [5] 仮設住宅からのすまいの再建における格差——Lens of Vulnerability モデルに基づく実証的研究——
- [7] [TA]
2017年度、2019年度、2020年度 社会学演習Ⅲ（立木茂雄）
- [9] 地域安全学会
日本建築学会
- [10] 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2017）
2016年度地域安全学会論文奨励賞（2016）
2018年度地域安全学会優秀発表賞（春季）（2018）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程 入学（2019）
日本学術振興会特別研究員 DC2（2020.04～）

森田 和樹 (モリタ カズキ/Morita Kazuki)

- [1] 2019 「朝鮮戦争下における韓国軍傷痍軍人の生活体験と暴動」『韓国・朝鮮の文化と社会』(18) : 171-211
- 2020 「1950年代韓国における「兵役法違反」裁判資料について」『評論・社会科学』(134) 121-140.
- [3] 板垣竜太・森田和樹, 2019. 06. 02 「朝鮮学校と地域社会の関係をめぐって(1)——銀閣寺の近隣に民族学校ができるとはいかなる経験か——」関西社会学会第70回大会、関西学院大学
- 2020 「朝鮮戦争期の韓国における徴兵忌避と脱走兵」韓国・朝鮮文化研究会第21回研究大会
2020年10月24日
- [4] 2019 「分断国家体制と軍隊忌避者たち——1950年代韓国における徴兵忌避・脱営・密航」
- [5] 2020 「分断国家形成と軍隊忌避者たち——1950年代韓国における徴兵忌避・脱営・密航」
- [6] 朝鮮現代史
- [7] 社会学演習Ⅲ (JENNIFER MARY MCGUIRE)
- [9] 関西社会学会、韓国・朝鮮文化研究会、ソシオロジ、同時代史研究会
- [10] 2012年度同志社大学文学部文化史学科入学
2014年度同志社大学法学部政治学科転学部
2017年度同志社大学法学部政治学科卒業
2018年度同志社大学大学院社会学研究科入学

藤本 慎也 (フジモト シンヤ/Fujimoto Shinya)

- [1] 2019 「災害時の防護意思決定構造の理論モデル化とその実証的検討：大分県3市における土砂災害に関する社会調査データへの構造方程式モデリングの適用」『地域安全学会論文集』35 : 305-315. (共著：藤本慎也・川見文紀・亀井敏和・徳永健介・三谷泰浩・立木茂雄)
- 2021 「災害リスク・コミュニケーション・ワークショップは防災リテラシーを高めたか—傾向スコア分析による効果検証—」『地域安全学会論文集』39 : 343-350. (共著：藤本慎也・菅原巧・三谷泰浩・川見文紀・立木茂雄)
- 2022 Pre-Existing Inequalities, Post-Event Social Environmental Changes, and Long-Term Trajectories of Life Recovery : Findings from Five-Wave Natori City Life Recovery Panel Survey, *Journal of Disaster Research*, 17(2) : 207-216. (共著：Shinya Fujimoto, Fuminori Kawami, Anna Matsukawa, Shosuke Sato and Shigeo Tatsuki)
- [2] 2018 「宮城県名取市における東日本大震災被災者に対する伴走型支援提供に関する検証：名取市現況調査4年分のパネルデータから」『地域安全学会東日本大震災特別論文集』7 : 43-46. (共著：藤本慎也・川見文紀・松川杏寧・佐藤翔輔・立木茂雄)
- 2019 「福祉事業所における災害時の事業継続に関する課題と対策の抽出」『地域安全学会東日本大震災特別論文集』8 : 23-28. (共著：藤本慎也・松川杏寧・辻岡綾・川見文紀・横田治郎・立木茂雄)

- 2021 「生活復興感の軌跡の類型化に関する基礎的研究：第1波－第5波名取市生活再建現況調査から」『地域安全学会東日本大震災特別論文集』10：10-14.（共著：藤本慎也・川見文紀・佐藤翔輔・松川杏寧・立木茂雄）
- [3] 2018 「東日本大震災被災者の生活復興類型5パターン－2014・2015・2016・2017年度名取市現況調査のデータをもとに－」第42回地域安全学会研究発表会（春季）（奥尻町海洋研修センター）（共著：藤本慎也・川見文紀・松川杏寧・佐藤翔輔・立木茂雄）
- 2019 「土砂災害時における避難行動を規定する要因に関する確認的研究：土砂災害時の避難行動促進検討に関する大分県社会調査データへの構造方程式モデリングの適用」第44回地域安全学会研究発表会（春季）（木曾町文化交流センター）（共著：藤本慎也・川見文紀・亀井敏和・徳永健介・三谷泰浩・立木茂雄）
- 2019 “System 1 and System 2 Protective Action Decision Making Processes: How Can We Trigger Faster Evacuation Actions?” 44th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop (Broomfield, Colorado, USA)（ポスター発表, 共著：Shinya Fujimoto, Fuminori Kawami, Toshikazu Kamei, Kensuke Tokunaga, Yasuhiro Mitani and Shigeo Tatsuki）
- 2019 “Exploration of Cross-Validity of the Protective Action Decision Model in Times of Landslide Disaster” 5th International Conference on Urban Disaster Reduction (Taipei, Taiwan)（共著：Shinya Fujimoto, Fuminori Kawami, Toshikazu Kamei, Kensuke Tokunaga, Yasuhiro Mitani and Shigeo Tatsuki）
- 2020 「台風接近時における災害情報・災害スキーマの避難行動への影響：2019年台風19号への対応に関するウェブ社会調査の結果から」第46回（2020年度）地域安全学会研究発表会（春季）（オンライン）（共著：藤本慎也・川見文紀・立木茂雄）
- 2020 “External and Internal Validation of the Disaster Schema-Initiated Evacuation Decision-Making Model” 45th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop（オンライン）（ポスター／ビデオ発表, 共著：Shinya Fujimoto, Fuminori Kawami and Shigeo Tatsuki）
- 2021 「リスク・コミュニケーション・ワークショップへの参加関連要因の基礎的分析」第48回（2021年度）地域安全学会研究発表会（春季）（オンライン）（共著：藤本慎也・菅原巧・三谷泰浩・立木茂雄）
- 2021 “Impact Evaluation of Interactive Risk Communication Workshop on Disaster Risk Reduction Literacy” 46th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop（オンライン）（ポスター発表, 共著：Shinya Fujimoto, Takumi Sugahara, Yasuhiro Mitani, Shigeo Tatsuki）
- 2021 “Multi-group Structural Equation Modeling Analyses of a Protective Action Decision Model in 3 Cities in Japan” 17th World Conference on Earthquake Engineering（オンライン）（ポスター発表, 共著：Shinya Fujimoto, Fuminori Kawami, Toshikazu Kamei, Kensuke Tokunaga, Yasuhiro Mitani and Shigeo Tatsuki）
- [4] 防災リテラシー向上施策の効果測定と防災リテラシーの分極化（2021年度博士論文構想発表会）
- [5] 2021 「台風・豪雨災害時の避難意思決定構造の理論モデル化と実証分析－「災害スキーマ」に方

向づけられる「状況の定義」に注目して－」

[7] [TA]

2019年度 社会調査実習Ⅰ（平尾桂）

2019年度 社会学演習Ⅲ（平尾桂）

2020年度 社会調査実習Ⅰ（平尾桂）

2021年度 社会学演習Ⅲ（立木茂雄）

2021年度 社会調査実習Ⅰ（平尾桂）

[9] 地域安全学会

[10] 同志社大学社会学部社会学科卒業（2019）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2019）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程修了（2021）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学（2021）

同志社大学大学院博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト（2021.10～2022.03）

地域安全学会論文奨励賞（2019）

[博士前期課程]

武田祐充子（タケダ ユミコ／Takeda Yumiko）

[7] [TA]

2019年度 社会学演習Ⅲ（藤本昌代）

[10] 同志社大学社会学部社会学科卒業（2019）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2019）

廣田あゆみ（ヒロタ アユミ／Hirota Ayumi）

[10] 同志社大学社会学部社会学科卒業（2019）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2019）

陳 祈航（チン キコウ／Chen Qihang）

[5] 2022 「COVID-19 がもたらす生活や意識への影響－日本における中国人若年層を中心に－」

[7] [TA]

2020年度 社会学演習Ⅰ-2（轡田竜蔵）

[10] 同志社大学社会学部社会学科入学（2016）

同志社大学社会学部社会学科卒業（2020）

同志社大学大学院社会学研究科入学（2020）

今里 舞 (イマザト マイ/Imazato Mai)

[5] 2022 「地域共生とコロナ——ウィズコロナ社会における「地域の居場所」——」

[7] [TA]

2020年度 社会調査実習 1-7 (徳田剛)

2021年度 社会調査実習 1-7 (徳田剛)

[10] 同志社大学社会学部社会学科入学 (2016)

同志社大学社会学部社会学科卒業 (2020)

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学 (2020)

金 芸蘭 (キム イラン/Jin Yilan)

[5] 2022 「定年退職経験者の就労の規定要因について」

[7] [TA]

2020年度 社会調査実習 I-3 (藤本昌代)

2020年度 社会調査実習 II-3 (藤本昌代)

[SA]

2020年春学期 仕事の社会学 (藤本昌代)

2020年秋学期 情報社会学 (藤本昌代)

[10] 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学 (2020)

郭 文静 (カク ブンセイ/Guo Wenjing)

[7] [SA]

2021年春学期 仕事の社会学 (藤本昌代)

2021年秋学期 情報社会学 (藤本昌代)

[10] 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学 (2021)

金 由地 (キム ユジ/Kim Yuji)

[7] [TA]

2021年度 社会学演習Ⅲ (JENNIFER MARY MCGUIRE)

[SA]

2021年度秋学期 複合領域科目 2-098

[8] 2021年度板垣ゼミ報告書 (題不明)

[10] 同志社大学グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アジア・太平洋コース卒業 (2020)

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学 (2021)

神尾 駿佑 (カミオ シュンスケ/Kamio Shunsuke)

[7] [TA]

2021年度 社会学演習Ⅲ（小林久高）

[10] 同志社大学社会学部社会学科卒業（2021）

劉 宇婷（リュウ ウテイ／Liu Yuting）

[7] [非常勤講師]

2020年10月～ 厦門市大同高等学校（中国）日本語非常勤講師

[10] 長春理工大学（中国）日本語学科卒業（2019）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2021）

莫 佳静（バク カセイ／Mo Jiajing）

[10] 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2021）

冷 芸（レイ ウン／Leng Yun）

[7] [TA]

2021年度 社会学概論（鵜飼孝造）

[SA]

2021年度 社会学理論（鵜飼孝造）

[10] 中央財経大学（中国）文化とコミュニケーション学科卒業（2012）

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程入学（2021）

2021 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
陳 祈 航	COVID-19 がもたらす生活や意識への影響 ——日本における中国人若年層を中心に——
今 里 舞	地域共生とコロナ ——ウイズコロナ社会における「地域の居場所」——
金 芸 蘭	定年退職経験者の就労の規定要因について